

## 1. 創造都市ネットワーク会議（総会）の開催

創造都市ネットワーク会議（総会）は、創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして設立された「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）」の総会として開催し、当年度の事業報告や次年度の事業計画、今後の目標等についての審議を行う会議である。

今年度の創造都市ネットワーク会議（総会）では、当年度の事業報告と次年度の事業計画及び新規ビジョンに向けた KPI の設定についての審議を行った。

開催日時	令和 5(2023)年 1 月 31 日（火） 10:00～11:20
会 場	北九州国際会議場 2 階 国際会議室 ほか オンライン（Zoom）
主 催	北九州市
共 催	文化庁、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）
事務局	北九州市
参加団体数	自治体 50、団体 5、個人会員 2 名
議決方法	事前に議決の電子投票を実施 全回答数 108 過半数 55
次 第	<input type="checkbox"/> 開会挨拶 ・北橋健治氏（北九州市長）（録画配信） ・杉浦久弘氏（文化庁次長） <input type="checkbox"/> 議案審議 ・第 1 号議案 令和 4 年度事業報告について ・第 2 号議案 新規ビジョンに向けた KPI の設定について ・第 3 号議案 令和 5 年度事業計画（案）について <input type="checkbox"/> その他（CCNJ 新規加盟団体の紹介） <input type="checkbox"/> 総括 ・佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問／文化庁文化創造アナリスト／金沢星稜大学特任教授／学校法人稲置学園理事） <input type="checkbox"/> 事務局からの連絡

### 【全体概要】

- 北橋健治氏（北九州市長）、杉浦久弘氏（文化庁次長）の開会挨拶後、事務局より CCNJ 設立からの経緯や新規ビジョン、運営体制等の説明があった。
- 議案審議は、事務局から各議案（第 1 号議案：令和 4 年度事業報告について、第 2 号議案：新規ビジョンに向けた KPI の設定について、第 3 号議案：令和 5 年度事業計画（案）について）の説明が行われ、事前議決（電子投票）で賛成多数により全議案が承認された。
- 第 1 号議案（令和 4 年度事業報告について）では、各部会の事務局、開催都市から追加報告があり、第 3 号議案（令和 5 年度事業計画（案））では、次年度の各部会の事務局、開催予定都市から挨拶があった。

- 第2号議案（新規ビジョンに向けたKPIの設定について）では、令和3年度に策定した新規ビジョンの達成に向け、幹事団体会議において検討を行ったKPIについての説明があり、アウトプットから中長期のアウトカムまでの4つのKPIと1つの参考数値が設定された。
- 議案審議終了後、昨年度の総会以降に新規に加盟された6つの自治体名が紹介され、代表して越前市長の山田賢一氏から挨拶があった。
- 最後にCCNJ顧問の佐々木雅幸氏が総括した。

### 【北橋健治氏（北九州市長）の挨拶要旨】

本日は、今年度の活動内容や新規ビジョンの達成に向けたKPIの設定、来年度の事業計画案に関して議案審議させていただく。

北九州市は城下町、宿場町として栄え、明治以降は工業都市として発展する中で、市民の文化芸術活動が活発に行われ、また、公害を克服してきた歴史がある。市民・企業・多様なアーティストが集い、本市の豊かな文化資源を活かしながら創造性を発揮することで、観光や産業など地域の活性化の原動力になっていく創造都市・北九州を目指している。このような中で、どのような国や地域にも豊かに存在し、互いの理解を深めるアートや文化は、SDGsにも大きく寄与することを実感しており、皆さんと一緒にCCNJのビジョン達成に向けて邁進したい。

### 【杉浦久弘氏（文化庁次長）の挨拶要旨】

文化庁はCCNJの活動をより意義あるものとするため、本総会などの開催支援、文部科学省や文化庁の関連事業との連携強化、共有情報の充実などに取り組んでいる。また、文化の持つ力とその活用は重要であり、第2期文化芸術推進基本計画の策定にも取り組んでいる。

文化庁は今年の3月に京都へ移転し、地方創生や新たな文化行政を進める上で大きな契機となる。文化芸術を通じた地域振興のトップランナーとして活躍する皆さんとともに、文化庁も一緒に汗をかいて頑張りたい。

### 【令和4年度各部会事務局・開催都市の追加報告要旨】

#### ①現代芸術の国際展部会

横浜市：岡山市で開催された「岡山芸術交流」に合わせて、担当者ミーティングとエクスカーションという形で、11月に2日間開催し、現地でも27名、民間の団体も含めて12団体に参加いただいた。

担当者ミーティングでは3つのテーマを決め、岡山市、香川県、宇部市からの報告とディスカッションを行い、エクスカーションでは岡山城や各会場を視察した。

岡山市：部会の企画段階から、担当者間の情報共有や相談がしっかりできるミーティングを目指して検討した結果、当日は活発な意見交換ができた。

#### ②創造農村部会

丹波篠山市：（都合により辞退）

#### ③国際ネットワーク部会

京都市：11月に臼杵市民会館とオンラインのハイブリッドで開催し、民間の団体も含めて17団体が参加した。

第1部では、臼杵市のエクスカッション・視察を行った後、担当者ミーティングを実施し、文化庁と文部科学省から、東アジア文化都市とユネスコ創造都市ネットワークの事業説明を受け、事業の意義や課題、国際ネットワーク部会の進め方について意見交換を実施した。

また、臼杵市のシンポジウムにも参加した。

臼杵市：臼杵市に来ていただいた方々には、臼杵の歴史ある町並みの見学やシンポジウムにも参加いただき、少しでも臼杵の良さを体感いただければうれしい。臼杵市は創造都市の取り組みを始めたばかりであり、本ネットワークは特に重要だと感じている。

### 【新規ビジョンに向けた KPI】

アウトプット	CCNJ が開催するセミナー、部会等の開催数
	CCNJ が開催するセミナー、部会等に参加した自治体・団体の数
アウトカム（短期）	CCNJ の参加団体数
アウトカム（中長期）	CCNJ の参加団体が取り組む、ビジョン実現に向けた優良事例数
参考数値	CCNJ に加盟する市町村における文化芸術推進基本計画の策定数

### 【令和5年度各部会事務局・開催予定都市の挨拶要旨】

#### ①現代芸術の国際展部会

横浜市：来年度は札幌市で開催される「札幌国際芸術祭」に合わせて開催する計画だ。

札幌市：「札幌国際芸術祭2024」は2024年の1月20日から2月25日に開催を予定しており、「さっぽろ雪まつり」との連携企画等も予定している。

#### ②創造農村部会

可見市：来年度の創造農村部会の開催地となる。詳しい内容はこれから詰めていきたい。

#### ③国際ネットワーク部会

京都市：来年度の部会の開催時期、開催地は未定だが、令和5年度の東アジア文化都市は静岡県内で実施されるため、視察も兼ねて静岡県内の都市で開催する方向で調整している。

### 【山田賢一氏（新規加盟団体・越前市長）の挨拶要旨】

越前市は福井県の中央部にある人口約8万人の市で、約1300年前には国府が置かれ、大陸と商いで結ぶ交通の要所であり、長く越前の国の政治・経済・文化の中心地として栄えたところである。越前和紙、越前打刃物、越前たんすの三つの指定伝統工芸品があり、趣のある重厚な文化を市内の至る所で感じることができる。

来年の春には北陸新幹線が敦賀まで延伸され、本市にも「越前たけふ駅」が設置される。今回のネットワークへの加盟をきっかけに皆さんとの交流を深め、本市固有の宝物を磨き輝かせ、多くの人に知っていただきたいと考えている。

## 【佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問）の総括要旨】

本日の総会は現地参加の自治体は少ないが、事前のオンライン審議で、回答のあった全ての加盟団体から議案に対する承認が得られたことは良かった。

コロナ禍で芸術文化セクター全体がダメージを受け、自治体の文化政策も困難な状況だったが、知恵を出し合って新しいやり方を模索してきた。本年度のCCNJの活動を振り返ると、各イベントが現地開催されたことは前進だと思う。

岡山市での現代芸術の国際展部会では、特に地元のアートコーディネーターの方々から、熱心に芸術祭の楽しみ方や作品との関係性などの指導を受け、これからの芸術祭の在り方についてもお互いに研鑽を深めることができた。

創造農村部会は丹波篠山市が熱心に部会を作り上げ、3回の会合を持てた。オンラインも現地参加・現地視察の組み合わせによって、それぞれ有意義なものになった。

国際ネットワーク部会は、ユネスコ創造都市ネットワークの担当者の計らいで、CCNJとの関係性の円滑化を図っており、CCNJ担当の文化庁地域文化創生本部、東アジア文化都市事業担当の文化庁文化経済・国際課との三つのセッションが融合して開催された。来年度の東アジア文化都市は静岡県で開催されるが、CCNJ加盟の浜松市、静岡市、三島市も参加しており、この事業の発展は楽しみだ。また、新たにユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指す動きもあり、岡山市や越前市もいずれ申請していただけていると思っている。国際ネットワーク部会そのものが、いろいろな運動の弾みをつくり出しているのではないかと。

今年度は新たに六つの自治体が加盟したが、大きな特徴は2025年の大阪・関西万博ではさまざまな芸術祭や文化プログラムが準備されていることもあり、大阪府や兵庫県などで加盟があった。また、福井県は県全体としてこれまで未加盟だったが、北陸新幹線開通というインパクトもあり加盟された。コロナ後の日本の文化的な発展に果たすべきCCNJの役割は大きくなっている。文化庁の京都移転で、京都での事業展開もあり、CCNJと文化庁が手を携えて発展していく年にしていきたい。

